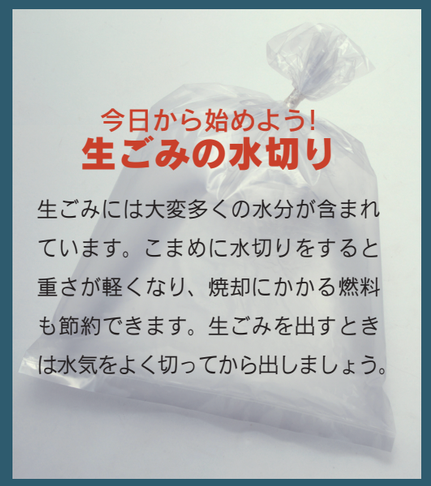
もう一度考えよう！
ごみ減量 4R

Refuse（リフューズ）
ごみになる物を断る・持ち込まない
- 買い物袋を持参し、レジ袋を断る
- お店で割りばしやアイスクリームのスプーン、ストローなどをもらわない
- 余分な包装を断る　など

Reduce（リデュース）
ごみを減らす・作らない
- 必要な物だけ買うように心掛ける
- 食べ残しをしない。料理を作り過ぎない
- 耐久性の高い家具や家電製品を選ぶ　など

Reuse（リユース）
使える物は最後まで再使用する
- 捨てる前に何かに使えないか考える
- 壊れたら修理して使う
- 詰め替え可能な商品を選ぶ
- 再使用が可能なリターナブル瓶の製品などを選ぶ　など

Recycle（リサイクル）
資源として使える物は再生利用する
- 資源物は分別して排出する
- 食品トレーは回収している店舗へ持っていく
- エコマークなどリサイクルマークのついた商品を選ぶ　など



問環境部総務課　☎31-6520
問環境部施設課　☎26-2116

佐世保市のごみ処理費用（平成19年度）
毎日約**9,640,000**円×365日=約**3,518,000,000**円

埋め立てる

佐世保市一般廃棄物最終処分場
灰溶融施設で溶かすことができないものなどは西部クリーンセンター西側にある最終処分場に運び、埋め立てます。写真中央がすり鉢の底の部分で、ことし3月末の埋め立て率は約60%となっています。写真は8月13日に撮影した最終処分場の状況。

◀建設当初（平成14年9月）、焼却灰が埋め立てられる前の最終処分場

溶かす

佐世保市灰溶融施設
東部・西部クリーンセンターから出る焼却灰はこの施設に運び、写真中央の溶融炉内に挿入された3本の電極に電圧をかけて溶融します。溶融後は再利用可能な物質を取り出し、容量が約5分の1になります。施設には1日に最大29トンの焼却灰を処理できる溶融炉を2基備えています。

中央制御室

集める

焼却施設
収集した燃やせるごみなどは東部・西部クリーンセンター、宇久清掃センターで年間9万トンを超える量を焼却処分しています。写真は西部クリーンセンターに集められた焼却前の燃やせるごみ。

燃やす

佐世保市灰溶融施設

八月一日、西部クリーンセンターの敷地内に、県内では九カ所目となる「佐世保市灰溶融施設」が完成しました。灰溶融施設とは、ごみ焼却後の灰を高温で溶かして減量化する施設。最終処分場が長く使えるようになるほか、新たに処分場を建設する際、規模を縮小できるなどのメリットがあります。

東部クリーンセンターと西部クリーンセンターから排出される焼却灰は年間約一万四千トン。この施設はこれを約千五百度の高温で溶かし、約五分の一の容量にすることができます。また焼却灰などを電気抵抗熱で溶融するため、土木資材や金属製品の原料などに再利用が可能な溶融スラグ（ガラス状の固形物）や溶融メタル（金属）を取り出すこともできます。

施設は鉄筋コンクリート地上4階、地下1階建て。平成十七年六月に着工し、防衛施設周辺民生安定施設整備事業として国から約十七億円の補助を受け、合併特例債などを含めた総事業費は約三十八億七千万円でした。

佐世保市一般廃棄物最終処分場

皆さんの家庭などから排出されたごみは、焼却施設や灰溶融施設でできるだけ減量化し、それでもなお残るものは最終処分場に埋め立て処分しています。

本市の現在の最終処分場は、平成十一年から建設し、同十四年九月に約五十五億円をかけて完成しました。この処分場は、すり鉢状の形状に焼却灰を埋め立てる構造で、埋め立て可能な容積は二十三万立方メートル。一辺が約六十一メートルの立方体に相当する容量があります。ことし三月末現在の埋め立て率は約60%で、平成二十二年に満杯になる見通しでしたが、灰溶融施設の完成で、現在は同三十二年まで使用できる見込みとなりました。

廃棄物の最終処分場は、地下水汚染を確実に防止することが最も重要だと言われています。本市の処分場はアスファルトコンクリートとシートによる二重遮水構造になっており、雨などによる浸出水は処分場横の処理施設に集め、カルシウム除去や脱塩処理、バクテリアによる分解、砂ろ過など最新の技術を駆使して無害化した後、近隣の川に放流しています。

灰溶融施設の外観

減量化と分別の徹底を

本市のごみ処理にかかる経費は年間約三十五億千八百万円（平成十九年度ごみ処理原価）。一日当たり約九百六十四万円、市民一人当たり年間約一万三千七百円となり、大きな財政負担となっています。今後こうした経費を抑え、資源が循環する社会を作っていくためには、市民や事業者の皆さんにさらに「ごみの減量と分別」を徹底していただくことが必要です。

ごみを減らすためには「ごみになる物を家庭に持ち込まない」「物を大切にし、ごみを作らない」という発生抑制の意識を持ち、それでも出てくるごみは「使える物は最後まで徹底的に再使用する」「資源として使えるものは再生利用する」ということを毎日の生活で心掛け、実践していくことが重要です。

本市では市民一人一日当たりのごみ排出量を、平成二十四年度までに一〇九五グラム（同十九年度から九十四グラム削減）にすることを目標にしています。毎日出るごみだからこそ、私たち一人一人の取り組みが市全体のごみ減量につながります。市民の皆さんのご協力をお願いします。